

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**【学校の現状】**

創立125周年を終えた、歴史と伝統のある学校である。学校全体が落ち着いた雰囲気の中で、教育活動が展開されている。教職員一人一人が、学級の児童や全校児童に積極的に関わり、熱意をもって教育活動にあたっている。

【前年度の成果と課題】

○確かな学力の育成

- ・教科指導専門員の指導を若手教員だけでなく全教員が受け、授業改善を行った。
- ・文章を書く力、文章を組み立てる力、計算力、文章問題を解く力の育成を重点的に行い、4月実施の区調査の通過率を80%以上に維持できた。
- ・6月までに「家庭学習の手引き」を全家庭に配布し、また家庭学習強化週間を年間3回（7・12・2月）実施した。家庭学習の定着率は95%以上で、定着してきている。
- ・新学習指導要領に基づいた授業の理解を深め、改善を図ることが必要である。
- ・パワーアップタイムや放課後補習の重点指導内容や方法を改善していくことが必要である。
- ・毎日の読書を行う時間を増やすことや家庭学習の課題の吟味が課題である。

○豊かな心と健康な体づくり

- ・道徳授業の研修の実施、毎週のいじめ防止委員会での情報交換、「誰でも相談日」の実施を行った結果、いじめの発生件数は増えていない。
- ・挨拶、返事、聞く態度のルールを全校で徹底して指導できた。挨拶がきちんとできるようになった結果、校外学習で毎回ほめられるようになった。
- ・周りの人に対する感謝の気持ちをもつことが広く浸透している。
- ・夜の就寝時刻が遅い子がいることと朝の排便の習慣化が課題である。

○幼保小中の推進

- ・幼保小交流で全教員が保育園を訪問し、就学に向けて学校側で準備することについて理解を深めることができた。
- ・「確かな学力の定着」を図るために小中連携を進め、小中の学力向上の課題と解決策を3校で確認し合うことができた。
- ・新学習指導要領に基づいた授業作りを小中連携で行っていききたい。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**重点的な取組事項－1 確かな学力の育成**

- ・朝学習、朝読書、パワーアップタイム、放課後補習教室、家庭学習の徹底実施
- ・区学力調査の採点分析対策の強化と授業改善
- ・サマースクール、自主学習教室の開催

重点的な取組事項－2 豊かな心と健康な体づくり

- ・ふれあい月間での調査実施と教育相談の改善、週1回の情報共有を行う
- ・全児童、開かれた学校づくり協議会を中心とした挨拶運動の実施
- ・体育科授業の計画の見直し、改善、全校体育的行事の焦点化
- ・年2回生活習慣改善週間を実施、調査養護教諭による保健指導を全学級実施

重点的な取組事項－3 幼保小中連携の推進

- ・園児と児童の交流2回、中学生と児童との交流2回、小中全教員の研究会6回
- ・近隣幼稚園保育園との職員交流
- ・小中連携の日に学力向上をテーマに、授業を参観し、研修を深める

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**重点的な取組事項－1 確かな学力の育成**

- ・朝読書、パワーアップタイム、放課後補習教室、家庭学習の徹底については、予定通り実施し、学

力向上に結びついた成果を出すことができた。目標達成について平均ではなく、全員の達成を目指していきたい。

- ・区学力調査の採点分析対策の強化と授業改善についても、新たな取組みを行い、成果を出すことができた。新しいテストにも対応し、課題になったところを授業改善に結びつけていきたい。
- ・サマースクール、自主学習教室の開催。毎年、多くの児童を迎え入れ、可能な限り個別の指導を行うことができた。引き続き実施していくと同時に、成果の測定を工夫していく。

重点的な取組事項－2 豊かな心と健康な体づくり

- ・ふれあい月間での調査実施と教育相談の改善、週1回の情報共有を行った結果、いじめはあるが早期に全て解決できている。友達関係も良好と捉えている。未然防止、早期発見、早期解決を徹底して行っていく。
- ・全児童による挨拶運動の実施を行い、挨拶が日常的に行われている。校外でも挨拶が率先してできるように広げていく。
- ・体育科授業の計画の見直し、改善を行い、全校の体育的行事のスリム化を図りつつ、効率的に体力の向上を目指す。
- ・年2回生活習慣改善週間を実施。養護教諭による保健指導を全学級実施した。朝ご飯はかなり定着している。早寝をできるように生活リズムができていない子を少なくしていきたい。

重点的な取組事項－3 幼保小中連携の推進

- ・園児と児童の交流を2回、中学生と児童との交流を2回、小中全教員の研究会を6回実施した。特に近隣の園児を学校に招き、学芸会の練習を見せたり1年生5年生とふれあったりして、接続期の取組みを行った。園児、児童ともにモチベーションが上がり、その後のフォローアップもスムーズであった。少しずつ広がりをもたせていきたい。
- ・小中連携の日に学力向上をテーマに、授業を参観し、研修を深めた。テーマ以外にも児童生徒の情報交換や接続期の英語活動の理解につながった。日程と連携する内容をしっかり考えていきたい。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

○確かな学力の育成について

4月に実施した区の学力調査の結果をもとに分析と弱点克服を行い、1月の再調査では通過率を10%以上向上させることができました。また家庭との連携強化により、家庭学習強化週間中の目標時間(学年×10分+10分)を達成した児童は94%を超えました。ご家庭での協力があつたからこそと感謝しています。さらに、身近に本がある環境を作り、「おすすめの本」の紹介コーナーや読み語り、「調べる学習コンクール」への参加、舎人図書館長の講演等、様々な取組みを行ったことにより、意欲的に本を読む児童が増えてきました。全校で読書目標を決め、全員が高い意識をもち読書活動に親しむことができました。読書を通して言語活動がさらに充実するよう、取組を継続していきます。来年度も、学力向上への取組を推進して授業力を高め、授業改善や学習指導の充実に努めていきます。

○豊かな心と健康な体づくりについて

いじめ等、児童の人間関係にかかわる問題の早期発見・早期対応・早期解決に努めています、児童が安心して通える、保護者の皆様が安心して通わせることのできる学校づくりを一層推進していきます。そのために、ふれあい月間のいじめアンケート、だれでも相談日、スクールカウンセラーと5年生の全員面接、ハートの郵便などを行い、人間性豊かな思いやりのある児童の育成を図っております。また、各家庭のご協力をいただき、生活リズム調査や健康指導等を行っています。また、なわとびチャレンジや持久走への取組も積極的に行い、豊かな心と健康な体づくりを推進してまいります。

○幼保小連携の推進心と体の健康づくりについて

近隣の幼稚園保育園と交流をもち、スムーズに1年生をスタートできるよう、教員同士の交流研修や情報交換を積極的に行っています。また、中学校との連携では小中3校で研修を深め、小中の間にギャップが生じないように、学力が向上できるように取り組んでいます。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 確かな学力の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
文章を書く力、文章を組み立てる力、計算力、文章問題を解く力の育成	区学力調査 通過率80%	区学力調査 通過率82.0% 正答率81.9%	改善点が多いが、目標は達成できた。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
別紙「平成30年度学力向上アクションプラン」評価シート参照					

重点的な取組事項－2 豊かな心と健康な体づくり

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童同士の良好な関係づくりと体力向上	児童アンケートでの児童、保護者の満足度90%の達成 都体力調査で都平均を60%以上上回る	児童アンケート「学校に行くのは楽しい」91.8%。保護者アンケート「仲良く落ち着いて学校生活を送っている」96.5%。 都体力調査で都平均を上回った項目58.3%	学習、生活規律を徹底して守らせ、生活リズムが整えられた学習生活環境を今後も作っていく。また、バランス良い体力向上に取り組んでいく。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめや友達関係の状況把握と良好な関係の指導	児童アンケート90%の実施	ふれあい月間での調査実施と教育相談の改善、週1回の情報共有	児童アンケート「学校に行くのは楽しい」91.8%。 認知したいじめの件数31件(11月末まで)	いじめはあるが、早期に全て解決できている。友達関係も良好と捉えている。	◎
周りの人に対する感謝の気持ちを表現や挨拶の励行	児童アンケート90%の実施	全児童・開かれた学校づくり協議会を中心とした挨拶運動の実施	挨拶、返事、聞く態度のルールを全校で徹底して指導できた。「自分から進んで挨拶する」の児童アンケートは92%ができています。	挨拶は、舎人の最も重要な指導の1つである。児童も挨拶はきちんとできてしていると自覚している。	◎
体力向上	都体力調査で都平均を60%以上上回る。	体育科授業の計画の見直し、改善 全校体育的行事の焦点化	各学年の調査項目の58.3%が都平均を上回ることができた。	都調査では「立ち幅跳び」「シャトルラン」「反復横跳び」が上回り、「握力」「投力」が低い。	○
健康な生活習慣の確立	早寝70%、 早起き80%、 朝ごはん95%	年2回生活習慣改善週間を実施、調査 養護教諭による保健指導を全学級実施	年2回生活リズム点検週間に調査を実施し、早寝56.2%早起き78.0%朝ごはん92.8%の結果であった。	夜の就寝時刻が遅い子がいることと朝の排便の習慣化が課題である。	○

重点的な取組事項－3 幼保小中連携の推進

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
幼保小の連携、小中の連携した教育を推進し、円滑で良好な接続の活性化	園児と児童の交流2回、中学生と児童との交流2回、小中全教員の研究会6回	園児と児童の交流2回、幼保小の教員、保育士の交流5回、中学生と児童との交流2回、小中全教員の研究会6回	昨年よりも交流の幅が広がった。私立幼稚園との職員交流が行えた。回数を増やしていくことが課題である。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
近隣幼稚園保育園児との交流	園児と1年生の給食や交流行事を年2回以上行う。	年間計画に基づき交流活動を実施する。	園児・児童の交流はみどり幼稚園、聖保育園と行った。いりや第二保育園も学芸会に招待した。職員の交流もつばめ幼稚園を受け入れた。	ブロック内の連携園に限らず、たくさんの園と交流をもつことが課題である。	◎
小中連携	授業参観3回、授業公開2回	小中連携の日に学力向上をテーマに、授業を参観し、研修を深める。	「主体的・対話的な授業づくり」をテーマに2回授業公開を行い、研修を深めた。	テーマをさらにしぼり、小中のスタンダードづくりを課題としたい。	◎

3. 学校活動全般について

学力をさらに伸ばすために、朝のパワーアップタイム、朝読書、放課後の補習、家庭学習の徹底と学校でできることは十分に質と量を考え、行ってきた。以前から重点的に取り組んでいる本校の学力向上策が、児童の中に浸透して、それが学習内容の理解、意欲、学習習慣の向上につながってきている。しかし、今後の伸びについては、同じことを繰り返すだけでは期待ができない。今年度は、校長はじめ、教職員一人一人が、学力調査結果等の分析や個人の学習成果の集積をさらに推進し、授業の内容や質の向上を図り、読むこと・書くこと、計算・読み解くことの基礎を中心に確かな学力の定着を図るために、多様な試みを行ってきた。このような試みは、次年度も継続して取り組んでいきたい。

また、「いじめ防止基本方針」「不登校児対応マニュアル」に則り、実行し、予防・改善に向けて成果をあげることができてきている。不登校児に対しても、連携を取り、最大のサポートを行っている。今後も改善の視点を加え、より丁寧かつ、より組織的な対応を行っていく。

生活指導では、あいさつ・言葉づかい・時間厳守・規範意識などの指導を徹底し、楽しくあたたかい学校生活を通して豊かな心の育成に努めていきたい。

「平成30年度 学力向上アクションプラン」評価シート

足立区立舎人小学校 学校長 富岡 尚生

		アクションプラン	達成目標(=数値) 〈いつまで・何を・どの程度〉	具体的な取り組み内容 〈誰が、何を、どのように〉	実施結果	コメント・課題	達成度 (◎○△●)
1	継続	朝学習 パワーアップ タイム	毎回のワークテスト、ミニテストで全員が正答率80%以上。	【指導者体制】担任 【取り組みのねらい・目的】基礎的内容の定着、読解力、表現力の向上 【使用教材】漢字、ローマ字、語彙力、読解小問題、短作文、計算練習、東京ベーシックドリル、作図問題、文章題等のプリント学習	全員が正答率80%以上は達成できなかったが、平均では80%以上をとれている。	毎週火木金の朝15分間、ミニテストやミニ問題を年間通して、実施してきた。80%の正答率を目指し、達成したが、全員はできなかった。全員できることにこだわっていきたい。	○
2	継続	放課後補習 教室	毎回のワークテスト、ミニテストで全員が正答率80%以上。	【指導者体制】担任+副担任 【取り組みのねらい・目的】その日のワークテストや小テストで正答率80%未満の児童が、解けなかった問題の解き直しやその日の授業で理解が完全ではない内容の復習・確認を行う。 【使用教材】ワークテスト、小テスト	全員が正答率80%以上は達成できなかったが、平均では80%以上をとれている。	分からない、できなかった問題をその日のうちに解き直しして下校することを年間通して実施した。間違えたらやり直す意識は、全員がもつことができている。ワークテストも80点以上の平均点となっている。	○
3	継続	朝読書 読書	1～3年生、年間50冊。 4～6年生、年間5000ページ。80%以上の達成。	【指導者体制】担任 【取り組みのねらい・目的】読書活動の推進 【使用教材】図書室や家庭から持参した本	前期後半までに72%の達成である。学年末までには80%以上になる見込みである。	いつも、身の回りに読みかけの本がある環境を目指している。今年はペースが上がっている。90%以上を期待している。	◎
4	継続	家庭学習強化週間の実施	家庭学習提出調査100%。 1日平均学習時間が目標時間を達成した児童の達成率95%以上。 調査終了後の実力テスト80%以上	【取り組みのねらい・目的】 ・家庭学習強化週間を実施し、家庭において、発達段階にふさわしい学習態度と進んで学習に取り組む習慣や学習に対して自分で内容を考え取り組もうとする意欲を身に付ける。 ・目標時間や内容が学力向上に適しているか。各学年で毎日の宿題・自学の方法を確認する。 ・家庭学習強化週間後に、各学年で実力テストを行う。	第2回家庭学習強化週間で宿題の提出状況は、94.0%、目標学習時間の達成率は94.6%。調査終了後のテストの正答率87.0%	家庭の理解、協力が不可欠である。保護者会でも十分に説明し、協力を求めている。できない子を何とかできるようにしていく努力を続けていきたい。	○

5	継続	サマースクール	全員の正答率の10パーセント向上	<p>【指導者体制】担任+副担任</p> <p>【取り組みのねらい・目的】担任や学年、副担任の少人数指導で、区調査のつまずきを掘り下げ、内容の定着を図る。</p> <p>【使用教材】区調査の過去問、国語算数のプリント</p>	正答率12%アップ	サマースクールには64名が参加。それぞれのつまずきに対応する学習を行った。効果測定は、方法を検討する。	◎
6	継続	授業改善・授業力向上	児童による授業アンケートの満足度80%以上	<p>【指導者体制】教科指導専門員+管理職</p> <p>【取り組みのねらい・目的】若手教員の授業力の向上、授業の課題解決を図る。若手教員に年間10回の授業研究を行い、足立スタンダードに基づいた授業力を身に付ける。</p>	「学校での授業は分かる」90.8%の満足度	保護者の評価は「分かりやすい授業をしている」が96.9%であった。教科指導専門員の観察、指導は国語51回、算数47回。授業だけでなく、教材研究も指導を受けられるようにしたい。	○
7	継続	区学力調査の自校採点と分析・対策	区学力調査の再調査での通過率95%。	<p>【取り組みのねらい・目的】区学力調査の採点と分析を当日、翌日に行う。SP表を作成し、学級ごとの分析を直後に行う。この結果を、朝学習や家庭学習の内容に反映させ、苦手な内容の指導に生かす。</p> <p>【対策内容】正答率が低く、問題の解説や繰り返しの練習が必要な内容を、年間を通して練習し、解けるようにする。</p> <p>○国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読解問題の内容、行動の理由の読み取り、聞く問題の理由の聞き取り、聞いたことを基にした短作文発表原稿の推敲、国語・漢字辞典の使い方、修飾関係、情報の読み取り、話し合いの要約、論理的思考 <p>○算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求差の答え方、立体の底面の形、順序数、位置と方向、問題文作り、口に当てはまる数、何倍か、箱の形、組み合わせ、解答の順序立てた説明、分数の大きさ、面積の単位、図形の性質、立式の説明、四捨五入、関係式、立体の辺の関係、計算の順序、割合、単分量、グラフの読み取り、論理的思考 	<p>区学力調査の再調査での通過率</p> <p>10月 通過率88.4 正答率87.0</p> <p>1月 通過率91.5 正答率88.1</p>	区調査の調査結果は、もっと多面的に活用できるようにしたい。	◎
8	新規	舎人サーキット	投力の10%向上	<p>【指導者体制】担任</p> <p>【取り組みのねらい・目的】校庭体育時に舎人サーキットに取り組む。通年で取り組むことで、運動の日常化を図る。投力、握力の向上につなげる。</p>	昨年比、投力はTスコア0.05ポイントアップ	校庭体育時に授業の始めにサーキットを始めて、定着してきた。継続を目標として、投力のアップにつなげていきたい。	△